

氏名	花川浩之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5084 号
学位授与の日付	平成27年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Novel and simple prognostic index for nasal natural killer/T-cell lymphoma (鼻NK/T細胞リンパ腫における新しいそして簡便な予後因子)
論文審査委員	教授 松川昭博 教授 西堀正洋 准教授 片山博志

学位論文内容の要旨

鼻NK/T細胞リンパ腫は稀な疾患であり、予後因子に関する報告は殆どない。これまでの報告は臨床経過と予後予測とに乖離があり、判定も煩雑であった。本疾患患者は初診時に耳鼻科を受診することが多く、発生部位（鼻・鼻咽腔）は解剖学的に耳鼻咽喉科医が精通していることもあり、耳鼻咽喉科医にとって簡便に用いることが出来る新しい予後因子（Novel Prognostic Factor：NPI）が必要であった。36例の鼻NK/T細胞リンパ腫症例を対象に、血液検査値および局所浸潤範囲を基に予後因子を作成した。血液検査値は、CRP（1以上）、LDH（350以上）、sIL-2R（600以上）が予後と有意に相関し、局所浸潤範囲は鼻腔内に限局するか否かが最も予後と相関した。血液検査で2項目以上該当する場合を血液検査スコア1（1項目以下は0）、局所浸潤が鼻領域を超える場合を局所浸潤スコア1（鼻領域内は0）とし、そのスコアの合算をNPIとした。5年生存率はそれぞれ、NPI=0：90.0%、NPI=1：29.3%、NPI=2：0.0%であった。NPIは鼻NK/T細胞リンパ腫における有用な予後因子となる可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

鼻NK/T細胞リンパ腫はまれな疾患で、予後因子に関する報告はほとんどない。本研究では、36例の鼻NK/Tリンパ腫症例を対象に、血液検査値および局所浸潤範囲をもとに予後因子を作成することを目的とした。血液検査値では、CRP（1以上）、LDH（350以上）、sIL-2R（600以上）が予後と有意に相関し、局所浸潤範囲は画像診断上、鼻腔内に限局するか否かが予後と相関した。血液検査で2項目以上該当する場合を血液検査スコア1、局所浸潤が鼻領域を超える場合を局所浸潤スコア1として、そのスコアの合算を予後因子（NPI）として評価したところ、5年生存率は、NPI=0:90%、NPI=1:29.3%、NPI=2:0.0%であった。NPIは鼻NK/T細胞リンパ腫における有用な予後因子となる可能性が示唆された。本研究は、鼻NK/T細胞リンパ腫の診断にあたる耳鼻咽喉科医に、簡便な新しい予後因子を示した点で評価できる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。